

学年(チーム)担任制のモデル実施

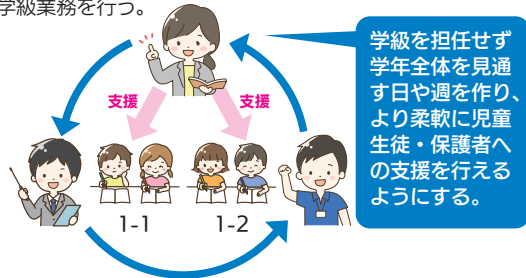
学級担任を固定せず、学級における指導等の業務を複数の教員がローテーションで担当する「学年(チーム)担任制」を、令和5年度より市立小学校2校・中学校2校でモデル実施します。取り組みの成果と課題を共有し検証・評価を行い、今後の展開を検討していく予定です。

●モデル校

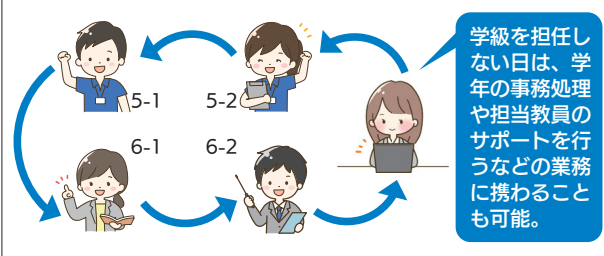
・摩耶小学校(灘区) ・東須磨小学校(須磨区) ・本山南中学校(東灘区) ・雲雀丘中学校(長田区)

●実施例

(例1) 中学校1年生2学級に3人の教員が週ごとに入れ替わりながら学級業務を行う。



(例2) 小学校5、6年生4学級に5人の教員が週ごとや月ごとに入れ替わりながら学級業務を行う。



●目指す効果(例)

- ・児童生徒・保護者にとって、相談できる教職員が増え、安心感が高まる。
- ・教職員が児童生徒の変化に気づく機会が増え、早期かつ丁寧な対応ができる。
- ・教育活動や指導の透明性を高め、開かれた学校づくりにつなげる。

小学校登下校時の持ち物の負担軽減 ～「置き勉」に代わるキャッチフレーズの決定～

1月号でご紹介した小学校登下校時の持ち物の負担軽減について、「置き勉」に代わる新しいキャッチフレーズを4・5・6年生の児童の皆さんから募集し、1,309件の応募により、届いたアイデアから、新しいキャッチフレーズを決定しました。

新しいキャッチフレーズ 「軽スタ/かるスタ」

登下校時の持ち物を「軽く」することと、家での「スタディ(勉強)」を合わせたキャッチフレーズとなっています。

基本的に、家庭学習については、必要な学用品のみ持ち帰ることとし、家庭学習で使用しない教科書やノート等は置いて帰ることとします。

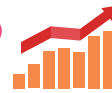
<取り組みの例>

- ・教科書やドリルを活用した家庭学習を行う際は、該当教科の教材のみ持ち帰る。
- ・学習用パソコンを持ち帰る際は、タブレットドリルやデジタル教科書を活用する。

児童の皆さんが時間割と照らし合わせて、家庭学習の課題に必要な学用品を持ち帰るなど、より主体的な取り組みを促していきますので、各ご家庭におかれても、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。



令和5年度 主な事業(予算)の紹介



1. 新しい時代の学びを実現する学校教育

小学校教科担任制

- ・小学校高学年において、専門性の高い教科指導を行う教科担任制を推進

英語教育

<9億4,560万円>

- ・全小中・高等学校に外国語指導助手（ALT）を配置
- ・小学校1～6年生の全ての外国語授業等でALTとの協同授業を実施

学習指導員の配置

<4億9,504万円>

- ・全小中学校に学習指導員を配置
- ・同室複数指導や少人数指導、放課後学習など、一人ひとりに応じたきめ細かい学習指導を実施

ギガ GIGAスクール構想

<25億3,837万円>

- ・中学校・特別支援学校の理科室に電子黒板、中学校・高等学校の図書室に無線LANを整備
- ・英語の児童生徒用デジタル教科書を小学校5・6年生と中学校で導入

体力向上に向けた取り組み

<1,346万円>

- ・1人1台の学習用パソコンを活用した運動の習慣化
- ・放課後の運動場等を児童に開放し運動する機会を確保

学校司書の配置

<3億5,646万円>

- ・全小中学校に学校司書を配置
- ・学校図書館の環境整備や教員と連携した授業支援を推進

2. 学校支援と組織力向上

教職員の働き方改革

より良い教育環境を目指し、以下の取り組み等を推進

- ・児童生徒の見守り体制の適正化
- ・授業時数の適正化や時程編成の見直し
- ・教員間での業務の偏りの是正・役割の明確化

スクール・サポート・スタッフの配置

<1億5,029万円>

- ・教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できるよう、教員の業務補助を行うスタッフを学校状況に応じて配置

高専の教育充実と外大との運営一体化

<7億1,831万円> ※一部令和4年度2月補正

- ・外大との同一法人下での運営移行による自主的・効果的な組織体制の構築
- ・実験実習設備や校内システム等の充実・更新をはじめとした教育研究機能の強化

中学校部活動の地域移行に向けて

<1億3,229万円>

- ・休日部活動の段階的な地域移行に向けたモデル事業の実施
- ・学校や関係機関との調整を行うため、「部活動コーディネーター」を配置
- ・部活動の指導等を行う「部活動指導員」を引き続き配置

学校徴収金口座振替手続きのスマート化

<2,022万円>

- ・令和6年度新入生から、学校徴収金の口座振替手続きをスマートフォン等から登録できるようなシステムを改修

コミュニティ・スクール

<2,683万円>

- ・小・中学校、義務教育学校に設置した学校運営協議会を中心として、学校・保護者・地域住民等が一体となった教育活動をより一層推進

教育委員会では、神戸が目指すこれからの学校の姿である「人がつながり ともに創る みんなの学校」を目指し、5つの重点的な施策に取り組んでいきます。
令和5年度の主な事業と予算について紹介します。

3. いじめ防止対策・不登校支援

不登校等の児童生徒に対する支援

<3,948万円>

- ・ 個々の状況に応じたオンライン授業や個別面談等の支援を実施
- ・ 「不登校担当コーディネーター」を配置し、学校やフリースクール等関係機関との連携や不登校支援事業を推進
- ・ 総合的・体系的な不登校支援策の構築

スクールカウンセラーの配置

<3億5,059万円>

- ・ 児童生徒や学校の実情に応じた柔軟な教育相談や支援を行うスクールカウンセラーを全小中学校等に配置・派遣

スクールソーシャルワーカーの配置

<9,129万円>

- ・ 福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを配置し、子供の健全な成長を支援するとともに、虐待・不登校等の早期発見・早期対応を推進

4. 個々の児童生徒に応じたきめ細かな支援

特別支援教育相談センター

- ・ 入学時や入学後の学びの場の変更についての相談（就学相談）、家庭や学校での具体的な支援の提案・指導内容の助言（教育相談）を実施

幼児期から学校卒業後までの一貫した支援

- ・ 「ネットワークプラン」を作成し、保護者と学校や関係機関が情報共有を実施
- ・ 「個別の指導計画」を作成・活用し、児童生徒に対するきめ細かな支援を実施

特別支援教育支援員等の配置

<1億8,363万円>

- ・ 特別な支援を必要とする児童生徒の学習支援を行う「特別支援教育支援員」の配置を拡充
- ・ 主に安全面での見守りを行う「特別支援教育ボランティア」を引き続き配置

自校通級指導教室の整備

<500万円>

- ・ 拠点校通級指導教室（市内14か所）に加え、新たに15校で自校通級指導教室を整備（計40校）

5. 学びを支える環境整備

中学校給食の全員喫食制への移行に向けて

<14億5,627万円>

- ・ 給食センターの整備を行い、令和7年1月以降、順次供用開始予定
- ・ 全員喫食制の給食を調理・配送する民間調理施設の事業者公募手続き等の実施
- ・ 全員喫食制への移行までの間、保温食缶を活用した温かい給食を提供

バリアフリー改修

<5億1,492万円> ※令和4年度2月補正

- ・ エレベーターの設置、スロープ等による段差解消、ユニバーサルトイレの設置

中学校給食費の半額助成

<3億3,000万円>

- ・ 中学校給食費：年額約57,000円→約28,500円（所得制限なし）

学校給食における食材費高騰対策

<2億7,927万円>

- ・ 保護者からの給食費の追加徴収が生じないように、高騰する食材費の増額分を公費負担

学校の大規模・長寿命化改修

<48億5,817万円> ※令和4年度2月補正

- ・ 学校の老朽化対策を行い、安全・安心な教育環境を確保（小学校12校、中学校7校、高校1校）

よいおこないをした児童生徒の表彰

子どもたちの心の中によりよい社会づくりに貢献する意欲と勇気を培い、児童生徒の健全な育成を図ることを目的に、よいおこないをした児童生徒を毎年表彰しています。今年度は個人2名と4グループを表彰します。

【個人】

学校名	学年	名前	概要
大原中学校	3年	爲木 康太郎	【人助け】転倒した高齢者を発見し、119番通報の依頼や警察官に助けを求めた。
桜が丘中学校	1年	澤田 東吾	【人助け】倒れている高齢者の手当を行い、救急車の到着まで寄り添った。

【グループ】

学校名	学年	名前	概要
本山南中学校	3年	高岸 愛心 中林 愛子	【人助け】下校時、体調不良を起こした高齢の親子2名に声をかけ、肩を貸し、自宅まで送り届けた。
北神戸中学校	1年	池田 良要 友藤 琉希 吉田 悠人	【人助け】坂道で転倒した高齢者を発見し、119番通報の依頼や止血の手当等を行った。
科学技術高等学校	2年	浅井 陽向 池田 永地 小川 大翔 竹田 青空 成田 京士郎 前田 健太 油谷 颯太	【人助け】横断歩道上で倒れた男性を助け、全員で手分けして救助要請、交通整理、安全確保等の対応を的確に行った。
葺合高等学校	3年 2年	吉野 花 岡田 響稀 得平 奏音 松沢 薫祈 梶原 桃葉 金子 芹奈 桑野 紗帆 後藤 薫凜 原 美鈴 村上 慧 山内 雅望 バック ジェーン 遥	【地域貢献活動】小中学生向け学習会を立ち上げ、「みんなの Luck Field」という団体名でボランティアでの学習支援を継続して行っている。

小・中学校の卒業式の日程等が変わります

●令和5年度の変更点（試行実施）

- 小学校の卒業式の日程を1日前倒しします。【例年】3月24日 ⇒ 令和6年3月22日(金)
- 中学校の卒業式の日程を「公立高校の入試前」から「入試後」へ変更します。
(令和4年度から継続して実施します。)
- 【令和5年度】公立高校入試日 令和6年3月12日(火)、中学校の卒業式 令和6年3月14日(木)
- 2学期終業式の日程を1日前倒しします。【例年】12月25日 ⇒ 令和5年12月22日(金)
(特別支援学校についても同様に変更します。)

●給食提供日の増

共働き家庭の増加など社会環境の変化を踏まえて、小学校と特別支援学校においては1・2学期の終業式、中学校においては3学期の始業式および1・2学期の終業式にも給食を提供します。

教育委員会へのご意見などはお問い合わせフォーム(教育委員会だよりのホームページ下部)
またはTEL: 984-0608 FAX: 984-0617でご連絡ください。

神戸市教委だよりの検索ボタン

